

平成29年度
北秋田市教育委員会
点検・評価報告書

平成30年10月
北秋田市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

点検及び評価の対象年度：平成29年度

<構成内容>

1 点検・評価の趣旨等・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

- (1) 点検・評価の趣旨
- (2) 点検・評価の対象
- (3) 点検・評価の方法
- (4) 学識経験者の知見の活用
- (5) 報告書の作成経緯
- (6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿

2 教育委員会の会議開催状況・・・・・・・・ P 3

3 教育委員会の会議審議状況・・・・・・・・ P 3

○平成29年度 教育委員会審議案件一覧

- (1) 平成29年度 附議案件
- (2) 平成29年度 報告案件
- (3) 平成29年度 その他案件

4 総合教育会議開催状況・・・・・・・・ P 6

○平成29年度 総合教育会議審議案件一覧

- (1) 平成29年度 審議案件

5 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】・・・・・・・・ P 6

6 主要事務事業点検・評価票・・・・・・・・ P 8

【点検・評価対象事務事業一覧】

【個別点検・評価票】

1 点検・評価の趣旨等

(1) 点検・評価の趣旨

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、平成29年度の教育委員会事務の点検及び評価を行い、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検・評価の対象

本報告書の点検・評価は、平成29年度の事務・取組を対象として実施しています。また、学校教育や社会教育に関することなど、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条で教育委員会の職務権限とされ、本市教育委員会が所管するすべての事務のうち、第2次北秋田市総合計画実施計画（H29～H31）に登載された事務事業を主な対象としています。

(3) 点検・評価の方法

第2次北秋田市総合計画実施計画（H29～H31）に登載された事務事業を主として、①学校教育の充実、②生涯学習の充実、③芸術・文化の継承と振興、④スポーツの振興の4施策、61事務事業について、年度当初に設定した評価指標に基づき、次の4項目について内部評価を実施しました。（小・中学校校務支援システム導入事業は平成30年度から本格運用のため評価していません）。

【有効性】 1＝期待以下（90%以下）、2＝期待どおり（90%超）、3＝期待以上（100%超）

【費用対効果】 1＝課題有り（90%以下）、2＝予定どおり（90%超）、3＝予想以上（100%超）

【必要性】 1＝低い、2＝高い、3＝不可欠

【方向性】 1＝廃止・休止（終了）、2＝縮小、3＝統合、4＝継続、5＝拡大

(4) 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、客観性を確保するため、学識経験者2名を評価委員に委嘱し、個別に意見をいただきました。

北秋田市教育委員会点検評価委員 秋田大学北秋田分校長 濱田 純 氏
北秋田市教育委員会点検評価委員 元秋田県立秋田北鷹高等学校長 佐藤 英樹 氏

(5) 報告書の作成経緯

報告書の作成は次のように行いました。

6月28日 教育委員会6月定例会で、平成29年度事務の内部評価と平成30年度対象事務事業、
評価指標の設定について審議

7月26日 北秋田市教育委員会点検評価委員選任

8月30日 教育委員会8月定例会で、平成29年度点検・評価報告書(案)審議

9月20日 点検評価会議を開催し、点検評価委員から意見聴取

9月26日 教育委員会9月定例会で、点検評価委員からの意見について報告

10月25日 教育委員会10月定例会で、平成29年度点検・評価について議決 → 公表

(6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿

(平成30年3月31日現在)

職 名	氏 名	委員任期
教 育 長	佐 藤 昭 洋	平成29年5月1日 ～平成32年4月30日
委 員 (教育長職務代理者)	永 井 高 道	平成27年5月14日 ～平成31年5月13日
委 員	佐 藤 正 俊	平成28年5月14日 ～平成32年5月13日
委 員	吉 田 美 樹	平成26年5月14日 ～平成30年5月13日
委 員	小 林 真	平成29年5月14日 ～平成33年5月13日

2 教育委員会の会議開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回の「教育委員会定例会」と、状況に応じた「教育委員会臨時会」を開催しています。平成29年度は、合計で14回開催しました。

(1) 教育委員会定例会・・・12回

(2) 教育委員会臨時会・・・2回

No	開催日	案件数			所用時間	出席 委員数	備考
		議決	報告	その他			
1	H29. 4. 27	3		9	95分	5	
2	H29. 5. 1			1	46分	4	臨時会
3	H29. 5. 24			3	60分	4	
4	H29. 6. 29	2		3	105分	4	
5	H29. 7. 28			3	135分	2	
6	H29. 8. 31	1		2	75分	4	
7	H29. 9. 28	2		2	89分	4	
8	H29. 10. 26	1		5	200分	4	
9	H29. 11. 29			2	61分	4	
10	H29. 12. 21	3		3	65分	4	
11	H30. 1. 25	3		3	111分	3	
12	H30. 2. 22			8	200分	4	
13	H30. 3. 2	1			90分	4	臨時会
14	H30. 3. 29	15		4	127分	4	
		31	0	48	1459分	54	

※H29. 5. 1より新教育委員会制度に移行したため、同日以降出席委員数に教育長は含みません。

3 教育委員会の会議審議状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第25条及び北秋田市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（平成17年教育委員会規則第6号）第2条の規定に基づき、平成29年度は合計で31件について審議しました。

<平成29年度 教育委員会審議案件一覧>

(1) 平成29年度 附議案件

議案番号	件 名	提出年月日
H29年19	北秋田市体育館管理規則の一部を改正する規則の制定について	H29. 4. 27
20	北秋田市第3次社会教育中期計画の策定について	H29. 4. 27
21	教育長の辞職につき同意を求めることについて	H29. 4. 27
22	北秋田市地域学校協働活動推進事業実施要綱の制定について	H29. 6. 29
23	北秋田市スポーツ大会出場費補助金交付要綱の一部を改正する要綱の制定について	H29. 6. 29
24	北秋田市教育委員会点検評価委員の委嘱について	H29. 8. 31
25	北秋田市芸術文化奨励賞授与規程の一部を改正する規程について	H29. 9. 28
26	北秋田市芸術文化功労者表彰規程の一部を改正する規程について	H29. 9. 28

議案番号	件 名	提出年月日
27	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	H29. 10. 26
28	北秋田市教員住宅条例の一部を改正する条例案の北秋田市議会提出について	H29. 12. 21
29	北秋田市浜辺の歌音楽館条例の一部を改正する条例案の北秋田市議会提出について	H29. 12. 21
30	北秋田市公民館管理規則の一部を改正する規則の制定について	H29. 12. 21
H30年1	北秋田市美栄集会施設条例を廃止する条例の北秋田市議会提出について	H30. 1. 25
2	北秋田市福田獅子舞伝承館の指定管理者の指定の北秋田市市議会提出について	H30. 1. 25
3	北秋田市立合川学童研修センター管理規則の一部を改正する規則の制定について	H30. 1. 25
4	県費負担教職員の内申について	H30. 3. 2
5	北秋田市学校運営協議会規則の制定について	H30. 3. 29
6	北秋田市立合川学童研修センター管理規則の一部を改正する規則の制定について	H30. 3. 29
7	北秋田市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について	H30. 3. 29
8	北秋田市通級による指導の実施に関する規程の全部を改正する訓令の制定について	H30. 3. 29
9	あきたリフレッシュ学園管理運営要綱の制定について	H30. 3. 29
10	秋田で学ぼう！教育留学事業実施要綱の制定について	H30. 3. 29
11	北秋田市立学校遠距離通学児童生徒スクールバス及びスクールタクシー利用要綱の一部を改正する訓令の制定について	H30. 3. 29
12	北秋田市芸術文化功労者表彰規程の廃止について	H30. 3. 29
13	北秋田市芸術文化奨励賞授与規程の廃止について	H30. 3. 29
14	北秋田市伊勢堂岱遺跡景観審議会委員の委嘱について	H30. 3. 29
15	北秋田市伊勢堂岱縄文館名誉館長の委嘱について	H30. 3. 29
16	北秋田市伊勢堂岱縄文館館長の任命について	H30. 3. 29
17	北秋田市公民館等に設置する輪転機の使用に関する要綱の制定について	H30. 3. 29
18	北秋田市公民館非常勤館長の任命について	H30. 3. 29
19	北秋田市公民館非常勤主事の任命について	H30. 3. 29

※議案番号は、暦年による一連番号を記載。

(2) 平成29年度 報告案件

番号	件 名	提出年月日
	なし	

(3) 平成29年度 その他案件

番号	件 名	提出年月日
1	平成29年度北秋田市教育委員会各課の課題と主な事業	H29. 4. 27
2	平成29年度北秋田市学校教育ビジョンについて	H29. 4. 27
3	平成29年度北秋田市教育センター事業について	H29. 4. 27
4	平成29年度北秋田市の児童・生徒数等について	H29. 4. 27
5	平成29年度北秋田市立学校の管理職一覧について	H29. 4. 27

番号	件 名	提出年月日
6	平成28年度末の人事異動について（大北以外の教諭の占める割合）	H29. 4. 27
7	平成29年度北秋田市の教育事情について	H29. 4. 27
8	4月の学校の状況について	H29. 4. 27
9	各課長所管報告	H29. 4. 27
10	教育長報告	H29. 5. 1
11	教育長動静	H29. 5. 24
12	フッ化物洗口液と手指消毒用アルコールを取り違える事故	H29. 5. 24
13	各課長所管報告	H29. 5. 24
14	教育長動静	H29. 6. 29
15	北秋田市議会6月定例会報告（教育委員会関係）	H29. 6. 29
16	各課長所管報告	H29. 6. 29
17	教育長動静	H29. 7. 28
18	各課長所管報告	H29. 7. 28
19	北秋田市教育委員会事務の点検評価について	H29. 7. 28
20	教育長動静	H29. 8. 31
21	各課長所管報告	H29. 8. 31
22	教育長動静	H29. 9. 18
23	各課長所管報告	H29. 9. 18
24	教育長動静	H29. 10. 26
25	国立市教育委員会視察報告	H29. 10. 26
26	平成29年北秋田市議会9月定例会（教育委員会関係）	H29. 10. 26
27	各課長所管報告	H29. 10. 26
28	平成29年度北秋田市一般会計補正予算（第6号）	H29. 10. 26
29	教育長動静	H29. 11. 29
30	各課長所管報告	H29. 11. 29
31	教育長動静	H29. 12. 21
32	平成29年北秋田市議会12月定例会（教育委員会関係）	H29. 12. 21
33	各課長所管報告	H29. 12. 21
34	教育長動静	H30. 1. 25
35	各課長所管報告	H30. 1. 25
36	北秋田市立小中学校平成29年度卒業式並びに平成30年度入学式について	H30. 1. 25
37	教育長動静	H30. 2. 22
38	平成30年北秋田市議会3月定例会（教育委員会関係）	H30. 2. 22
39	各課長所管報告	H30. 2. 22
40	平成30年度一般会計当初予算	H30. 2. 22
41	平成29年度一般会計補正予算（第9号）	H30. 2. 22
42	北秋田市立小中学校平成29年度卒業式並びに平成30年度入学式について	H30. 2. 22
43	平成30年第1回臨時教育委員会開催日について	H30. 2. 22
44	教育長動静	H30. 3. 29
45	各課長所管報告	H30. 3. 29
46	北秋田市立小中学校平成30年度入学式について	H30. 3. 29

4 総合教育会議開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）の施行により、平成27年度から「総合教育会議」を設置しています。

総合教育会議では、市長と教育委員会が協議を行い、教育に関する総合的な施策の大綱を策定する他、教育の条件整備など重点的に構すべき施策、児童・生徒等の生命・身体のプロテクト等緊急の場合に構すべき措置等について協議・調整を行います。平成29年度は2回開催しました。

<平成29年度 総合教育会議審議案件一覧>

(1) 平成29年度 審議案件

番号	件 名	年月日
1	北秋田市教育大綱（生涯学習編）の変更について	H29. 5. 24
2	平成29年度主な教育施策について	H29. 5. 24
3	平成29年度主要教育施策の実施状況（上半期）及び平成30年度における教育に関する重点施策について	H29. 11. 29

5 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】

平成29年度における教育委員会の当初予算は19億7,745万2千円でありましたが、1億718万円の増額補正、600万円の継続費及び繰越事業費繰越額、1,102万7千円の予備費支出及び流用増額があり、予算合計が21億165万9千円となっています。これは、前年度予算と比較して379万2千円増加していますが、一般会計に占める教育費の割合は約7.6%で、前年度に比べ約0.3%減少しています。

平成29年度における教育委員会の主要施策についての個別点検・評価については、次頁以降に示している61事業において実施しました（小・中学校校務支援システム導入事業は平成30年度から本格運用のため評価しておりません）。各事業の採点による点検・評価結果の概要は次のとおりです。

「有効性」については、「北秋田市民ふれあいプラザ管理事業」「文化会館改修事業」「民族芸能大会事業」「北秋田市スポーツ大会出場費補助事業」の4事業において「期待以上」の成果が得られたと評価されました。北秋田市民ふれあいプラザはオープンから2年目の平成30年3月に来館者50万人を達成、また、初めて北秋田市民ふれあいプラザを会場に実施された民族芸能大会は、舞台と観客が近く、迫力ある大会となりました。一方、「陶芸ハウス管理事業」「あいターミナル管理事業」「浜辺の歌音楽館運営事業」の3事業が「期待以下」と評価されました。

「費用対効果」については、「公民館講座開設事業」「北秋田市民ふれあいプラザ管理事業」「縄文まつり開催事業」「みちのく子供風土記館管理事業」「北秋田市民プール管理運営事業」「100キロチャレンジマラソン大会補助事業」の6事業において「期待以上」の成果が得られたと評価されました。また、「陶芸ハウス管理事業」「あいターミナル管理事業」「浜辺の歌音楽館運営事業」の3事業が「課題有り」と評価されました。特に「陶芸ハウス管理事業」は7年、「あいターミナル管理事業」は9年続けて「課題有り」と評価されており、利用者の増加につながらない長年の課題が解消されない状態となっています。

「必要性」については、19事業が「高い」、42事業が「不可欠」と評価され、「低い」と評価された事業はありませんでした。

「方向性」については、「小・中学校施設維持補修事業」「総合学習補助事業」「スクールバス運行事業」「学校生活サポート事業」「北秋田市民ふれあいプラザ管理事業」「伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業」「図書館事業」「胡桃館遺跡埋蔵資料等管理事業」の8事業が「拡大すべき」と評価されました。また、「少子化対策・子育て支援事業」「公民館管理事業」の2事業が「統合」、47事業が「継続」と評価され、「縮小」と評価された事業はありませんでした。平成29年度で終了した事業は「伊勢堂岱遺跡見学環境整備事業」「鷹巣体育館外壁等改修事業」「中央公園野球場フェンス改修事業」の3事業、「小・中学校パソコン導入事業」は全小・中学校にタブレット型パソコンが導入されたことから、更新を迎えるまで当面休止となりました。

平29年度の点検・評価対象事業は、施設の維持管理等例年実施している事業が中心となりました。今後は北秋田市小中学校適正規模・配置再編プランに基づく学校統合が予定されており、校舎改修や建設等大型事業が控えていることから、「必要不可欠」な事業を限られた予算で効率よく実施し、かつ、高い成果を上げることが一層求められます。そのため、例年実施している事業についても常に内容を精査しながら取り組んでいくことが大きな課題となります。

5回目の参加となった「チャレンジデー2017」は、市民ら2万65人が参加しました。参加者は1,093人増加、参加率は4.44%増加して60.04%となり、3年連続の金メダルを獲得し、目標とした参加率60%も達成しました。茨城県行方市との対戦は、当市の参加率60.04%に対し、行方市59.99%と、0.05%の僅差で勝利しました。自治会や各種団体、企業等へ広く声掛けを行ったほか、大型ショッピングセンターでの買い物ウォークを実施したことが、3年連続で参加率50%以上の金メダルにつながった要因と考えられます。次年度以降も参加率を競うことだけではなく、スポーツを通じて北秋田市が明るく元気になるよう取り組みを継続していきます。

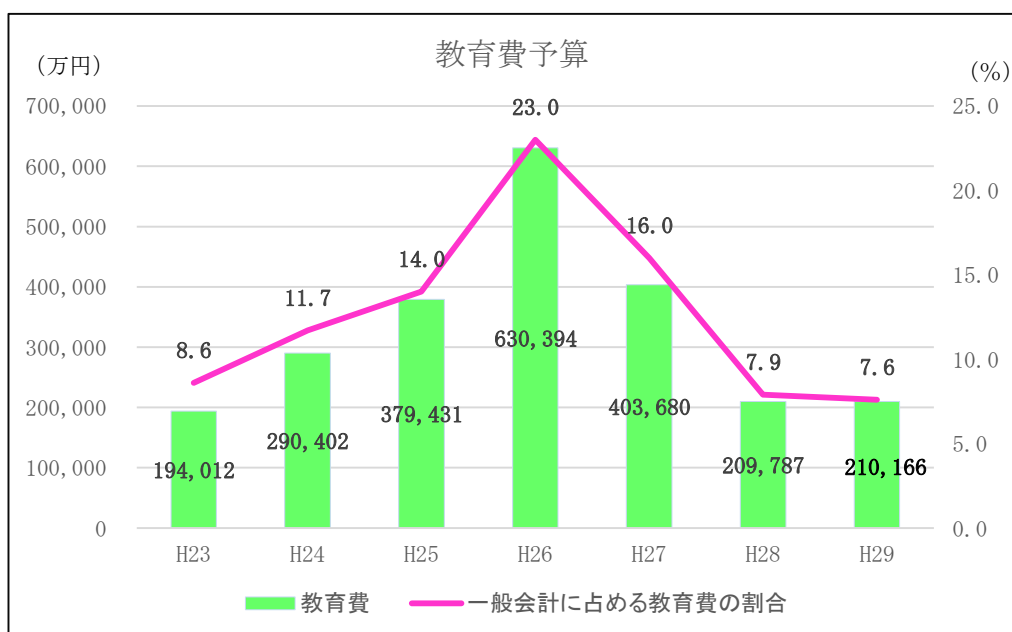
会議については、教育委員会を14回、「総合教育会議」を2回開催しました。市長と教育委員が一堂に会し、北秋田市における「学校教育」「社会教育」「スポーツ」という教育全般にわたり、教育理念や方針、施策や事業等について有意義な協議、意見交換が行われました。

点検評価を終え、学識経験者からは次のような御意見をいただきました。
 「すべての事業に渡り、教育委員会全体で大変よく取り組まれている。したがって、こうすればもっとよくなるという視点で意見を述べさせていただいた。また、評価がもう一ランク上でもいいのではないかと思います。事業も見受けられた。今後も自信をもって実施・推進していただきたい。」
 「今後の方向性や次年度の評価指標が記載されており、どうやって進めていくのかが一目瞭然で分かり易く、よいと感じた。設定した目標を達成できるように進めていっていただきたい。」
 いただいた御意見を踏まえ、より効果的な教育行政の推進に努めて参ります。

平成30年10月

北秋田市教育委員会

【参考】



6 主要事務事業点検・評価票

【点検・評価対象事務事業一覧】

施策名	施策の方向性
学校教育の充実	①学校の適正配置 ②基礎学力の定着と学力向上 ③体験を重視したキャリア教育・ふるさと教育の充実

No	事務事業名	【総務課】
1	あきたリフレッシュ学園事業	
2	小・中学校施設維持補修事業（前：小・中学校校舎等内外改修補修事業）	
3	学校給食センター運営事業	

No	事務事業名	【学校教育課】
4	外国青年招致事業	
5	総合学習補助事業	
6	教育センター事業	
7	小・中学校パソコン導入事業	
8	遠距離通学費補助事業	
9	スクールバス運行事業	
10	要保護及び準要保護児童生徒援助費補助事業及び特別支援教育就学奨励費補助事業	
11	学校生活サポート事業	
12	学校保健事業	
13	学校安全整備事業	
14	小・中学校備品整備事業	
15	児童生徒大会派遣費補助事業	
16	不登校児童生徒対策事業	
17	小・中学校楽器整備事業	
18	小・中学校校務支援システム導入事業	

施策名	施策の方向性
生涯学習の充実 【重点プロジェクト】	①地域づくりにつながる社会教育 ②北秋田市民ふれあいプラザを拠点とした生涯学習の充実と地域の活性化 ③学びの場・発表の場の提供 ④児童・生徒の学校外の学習・交流促進

No	事務事業名	【生涯学習課】
19	少子化対策・子育て支援事業	
20	新成人事業	
21	日本語教室開催事業	
22	高齢者教育事業	
23	青少年育成事業	
24	公民館管理事業	
25	公民館講座開設事業	
26	花いっぱい運動推進事業	
27	農林業振興センター（鷹巣地区公民館）管理事業	
28	農村環境改善センター（合川公民館）管理事業	
29	コミュニティセンター（森吉公民館）管理事業	
30	ふるさと文化センター（阿仁公民館）管理事業	
31	陶芸ハウス管理事業	
32	あいターミナル管理事業	
33	北秋田市民ふれあいプラザ管理事業	
34	放課後児童健全育成事業	
35	放課後子ども教室事業	
36	地域学校協働本部事業（学校支援活動）（前：学校支援地域本部事業）	
37	家庭教育支援チーム推進事業	

施策名	施策の方向性
芸術・文化の継承と振興	①伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録推進 ②芸術、文化活動の支援 ③有形文化財の保存と活用 ④無形文化財の保護と継承

No	事務事業名	【生涯学習課】
38	伊勢堂岱遺跡見学環境整備事業	
39	伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業	
40	縄文まつり開催事業	
41	交流センター管理事業	
42	交流センター改修事業	
43	図書館事業	
44	文化会館管理事業	
45	文化会館改修事業	
46	みちのく子供風土記館管理事業	
47	浜辺の歌音楽館運営事業	
48	浜辺の歌音楽祭開催事業	
49	文化祭開催事業	
50	伊勢堂岱縄文館管理事業	
51	胡桃館遺跡埋蔵資料等管理事業	
52	文化財保護事業	
53	民俗芸能大会事業	

施策名	施策の方向性
スポーツの振興	①スポーツ環境の充実 ②生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化 ③競技スポーツの向上

No	事務事業名	【スポーツ振興課】
54	鷹巣体育館外壁等改修事業	
55	中央公園野球場フェンス改修事業	
56	北秋田市民プール管理運営事業	
57	薬師山スキー場管理運営事業	
58	100キロチャレンジマラソン大会補助事業	
59	北秋田市スキー大会補助事業	
60	北秋田市スポーツ少年団大会派遣費補助事業	
61	北秋田市スポーツ大会開催補助事業	
62	北秋田市スポーツ文化等合宿誘致促進事業	

【個別点検・評価票】 ※比較のため、括弧書きで前年度の評価結果を記載しています。

1 あきたリフレッシュ学園事業				主管課	総務課																																												
決 算 額	15,792 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)																																												
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続																																												
活 動 内 容	①あきたリフレッシュ学園 県内の人間関係やストレス等で心の問題に悩む小・中学生に、自然体験や農作業体験等さまざまな体験活動や集団活動を通して、心と体の元気を取り戻すきっかけと自立に向けた自信を与える場を提供する。 ②教育留学（秋田県の委託事業） 当市の強みである豊かな教育資産を活かして、交流人口を増やし、家族ぐるみでの移住・定住につなげるため、市内の小・中学校に短期・長期で児童・生徒を受け入れ、当市の教育や自然を体験してもらう。																																																
評 価 指 標	①あきたリフレッシュ学園 学校に行けなくなった小・中学生への学びの場の提供 宿泊利用による規則正しい生活リズムの確立、学校復帰・高校進学 ②教育留学 参加児童・生徒数、教育留学に関わる移住・定住者数																																																
成 果 と 課 題	①あきたリフレッシュ学園 平成29年度は198日間開園し、15名の利用があった。中学3年生3名全員が高校へ進学し、中学2年生以下12名中10名が年度途中に学校に通学できるようになり、学校復帰率は対前年比1%減の87%となった。また、定期的な宿泊利用により、入園当初よりも健康的な生活を取り戻す子もみられた。一方、リフレッシュ学園にも登園できなくなる子もあり、この子たちとの関わり方が課題。 あきたリフレッシュ学園利用者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>延利用者数</th><th>実利用者数</th><th>実利用者の内市内の児童生徒数</th></tr></thead><tbody><tr><td>H20</td><td>243</td><td>8</td><td>0</td></tr><tr><td>H21</td><td>547</td><td>9</td><td>1</td></tr><tr><td>H22</td><td>982</td><td>20</td><td>1</td></tr><tr><td>H23</td><td>656</td><td>14</td><td>3</td></tr><tr><td>H24</td><td>870</td><td>16</td><td>6</td></tr><tr><td>H25</td><td>776</td><td>16</td><td>8</td></tr><tr><td>H26</td><td>1,018</td><td>19</td><td>7</td></tr><tr><td>H27</td><td>1,098</td><td>17</td><td>10</td></tr><tr><td>H28</td><td>975</td><td>16</td><td>8</td></tr><tr><td>H29</td><td>964</td><td>15</td><td>8</td></tr></tbody></table> — 延利用者数 — 実利用者数 — 実利用者の内市内の児童生徒数 ②教育留学 長期留学参加者 H28 10名（延べ319名） H29 13名（延べ630名） 短期留学参加者（夏期）H28 25名 H29 32名（冬期）H28 16名 H29 33名					年度	延利用者数	実利用者数	実利用者の内市内の児童生徒数	H20	243	8	0	H21	547	9	1	H22	982	20	1	H23	656	14	3	H24	870	16	6	H25	776	16	8	H26	1,018	19	7	H27	1,098	17	10	H28	975	16	8	H29	964	15	8
年度	延利用者数	実利用者数	実利用者の内市内の児童生徒数																																														
H20	243	8	0																																														
H21	547	9	1																																														
H22	982	20	1																																														
H23	656	14	3																																														
H24	870	16	6																																														
H25	776	16	8																																														
H26	1,018	19	7																																														
H27	1,098	17	10																																														
H28	975	16	8																																														
H29	964	15	8																																														
今後の方向性	①あきたリフレッシュ学園 家庭や在籍校、さわやか教室、スペース・イオ等関係機関との連携を図りながら、学校へ行けない子どもたちの貴重な学びの場として事業実施していく。 ②教育留学 秋田県の委託を受け継続実施するとともに、総合政策課と連携していく。																																																
平成30年度 評 価 指 標	①あきたリフレッシュ学園 学校に行けなくなった小・中学生への学びの場の提供 宿泊利用による規則正しい生活リズムの確立、学校復帰率87% ②教育留学 参加児童・生徒数、教育留学に関わる移住・定住者数																																																
学識経験者の 意 見	両事業を連携した形で進めているのがよい。空き家もあるので、県にも働きかけながら移住・定住につながるよう強力にアピールしてもらいたい。事業は異なるが、地域おこし協力隊として戻って来る方もおり、非常に素晴らしい。帰郷後の追跡調査やOB会の設置等、面白いアイディアもあるのでぜひ実現してもらいたい。																																																

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)	2＝期待どおり(90%超)	3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)	2＝予定どおり(90%超)	3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い	2＝高い	3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了)	2＝縮小	3＝統合
		4＝継続
		5＝拡大

2	小・中学校施設維持補修事業 (前:小・中学校校舎等内外改修補修事業)				主管課	総務課
	決 算 額	(小)45,677 千円 (中)13,303 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
			2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (5) 拡大
	活 動 内 容	校舎、体育館等学校施設の機能を維持するため、経年劣化した建物や故障した設備の維持補修工事を行い学校生活の環境整備を図った。				
	評 価 指 標	児童生徒が安心して学校生活を送るための環境整備				
	成果と課題	小学校施設26件、中学校施設19件の維持補修・改修工事を行い学校環境を整備を図った。 建物や設備の維持補修については、安全性や緊急性を考慮し優先順位を決めて進めているが、各学校施設とも老朽化が進み、年々改修箇所が増加傾向にある。 学校再編プランを基に、効率良く改修・補修を進めていく必要がある。 【主な工事（小学校）】 ○綴子小学校暖房設備改修工事 FFストーブ22台 オイルタンク 1K0×2基 工事費21,276,000円 ○米内沢小学校体育館屋根塗装工事屋根塗装替え 1,340㎡ 工事費 6,264,000円 ○鷹巣南小学校プール塗装工事 塗装替え 561㎡ 工事費 3,834,000円 【主な工事（中学校）】 ○阿仁中学校校舎外壁補修工事 バルコニーの補修一式 工事費 4,860,000円 ○鷹巣中学校プールろ材交換工事 ろ材交換一式、ろ過機塗装一式 工事費 2,926,800円				
	今後の方向性	必要不可欠な事業であり、施設も老朽化が進んでいるため、更なる事業の拡大が求められる。				
	平成30年度 評 価 指 標	当初予定工事の進捗率、緊急性を要する事案への対応。				
	学識経験者の 意 見	必要不可欠な事業であり、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、継続実施を図りたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

3 学校給食センター運営事業				主管課	総務課
決 算 額	300,112 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内各小中学校の児童、生徒に対し、給食を通じた食育を行い、健康の増進を図ることを目的として実施した。				
評 価 指 標	児童・生徒に対する給食の実施・栄養教諭による食育指導				
成果と課題	学校教育の一環として、北秋田市内小学校10校1,199名、中学校5校635名及び受託事業として比内養護学校たかのす分校43名への給食を実施。 アレルギーを発症する児童、生徒が増加している中、家庭における対策等の栄養指導、助言等を前年度統一化したマニュアルに沿って行った。				
今後の方向性	児童・生徒に対する給食の実施・栄養教諭による食育指導				
平成30年度 評 価 指 標	児童・生徒に対する給食の実施・栄養教諭による食育指導				
学識経験者 の 意 見	アレルギーへの対応は大変かと思うが、作成したマニュアルに沿い、事故等に細心の注意を払いながら継続実施を図られたい。 事事故例が少ないことは非常に評価できる。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

4 外国青年招致事業				主管課	学校教育課
決 算 額	30,940 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (2) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	外国語指導助手（A L T）として、7名（全てアメリカ出身）を招聘し、小学校10校、中学校5校に派遣している。外国語活動・外国語指導の充実を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を目指している。A L Tの人数や学級数、また派遣上の問題が特になければ、原則的に中学校区単位で同一のA L Tを担当させ、児童生徒の視点とA L Tの児童生徒理解の視点からも、小・中連携を図っている。A L Tコーディネーター派遣事業を実施し、A L Tの資質向上に努める。				
評 価 指 標	①県学習状況調査平均通過率で県平均+3%（中1・中2） ②同質問紙「外国語活動（英語）の勉強が好きだ」が県平均+3%（小5～中2） ③英検3級以上取得と相当の英語力を有すると思われる割合が県平均を上回る 実態に応じて継続的に指導に当たる。 新学習指導要領実施に当たり、小学校3・4年生の外国語活動へ対応できるように計画をする。				
成果と課題	①中1：H29 -1.1、H28 +0.3 中2：H29 +4.9、H28 +3.8 ②小5：H29 +6.7、H28 +2.7 小6：H29 +9.3、H28 +6.2 中1：H29 -8.0、H28 +0.7 中2：H29 +2.9、H28 +12.2 ③中3：H29（市55.4、県49.1） H28（市45.7、県37.1） 県平均との±は目安の一つとして捉え、学年の実態に合わせた指導とともに、個に応じた指導の充実を図る必要がある。				
今後の方向性	コーディネーター訪問を定期的に行い、A L Tの資質向上を図っていく。新学習指導要領全面実施に向けて、学級担任がA L Tとチームティーチングを過度な負担なく行えるよう継続して支援できるようにする。				
平成30年度 評 価 指 標	①県学習状況調査平均通過率で県平均+3%（中1・中2） ②同質問紙「外国語活動（英語）の勉強が好きだ」が県平均+3%（小5～中2） ③平成30年度から実施する英検 I B A 3級以上取得の割合が県平均を上回る。 実態に応じて継続的に指導に当たる。				
学識経験者の 意 見	A L Tコーディネーター派遣事業の成果も見えつつあるようなので、個性的なA L Tの指導能力向上を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成につなげるため、コーディネーターの定期訪問と研修の継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

5 総合学習補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	750 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	5 (4) 拡大
活 動 内 容	小・中学校において特色ある総合的な学習活動が充実できるよう50千円を上限に補助金を交付した。(50千円×15校)				
評 価 指 標	全ての小・中学校において、特徴を生かした活動に取り組む。				
成果と課題	農園活動、地域との交流活動、ふるさとを知る活動、伝統文化継承活動、福祉や産業に目を向け、職業観をもって自分の将来について考えられる取組など、幅広い分野において各校が地域の特徴を活かした総合的な学習を各校が実施した。				
今後の方向性	各学校の実態に応じて更なる創意工夫を促すために予算を増額した。 平成30年度予算：1,125千円（前年比：375千円増）				
平成30年度 評 価 指 標	各学校で、横断的・総合的な学習、探究的な学習を通じた特色ある活動を促す。				
学識経験者 の 意 見	学校の負担にならない、利用し易いやり方で実施している点が評価できる。非常に効果の高い事業であることから、今後も学校要望を集約しながら継続実施を図りたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

6 教育センター事業				主管課	学校教育課
決 算 額	4,249 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	北秋田市学校教育ビジョンに掲げる「主体的に学び、新しい時代を創造する子ども」を目指す子どもの姿として、小・中学校の教職員研修を計画・実践した。組織を事業調査部、教職研修部、授業・教科部に分け、その中に各部会を設置し、一人一人に過度な負担をかけないようにしながら、教職員研修の充実を図っている。				
評 価 指 標	教職員に「事前研究会」と「授業研究会」についての満足度について尋ねる年度終盤に実施するアンケート（4段階評価）において、十分満足と概ね満足の合計が90%を超えるようにする。県学習状況調査の児童生徒アンケートで「学校生活に満足している（学校が楽しい）」の4段階評価で「4」の児童が70%、生徒が65%を超えるようにする。 市学力調査の実施時期を4月から1月に変更し、分析をWebで行うことにしたことについて、実施後の検証を行い、その結果を次年度以降に反映させる。				
成 果 と 課 題	教職員アンケート結果 ・事前研修会（小学校86%、中学校100%） ・授業研究会（小学校85%、中学校 95%） 県学習状況調査の児童生徒アンケート結果 ・小4(72.9%)、小5(70.5%)、小6(68.6%)、中1(58.5%) 中2(68.4%) 校務支援システム導入に向けて、集合研修や各校研修を計画的に行った。また、部会の回数を削減したり、研修内容を精選して研修の効率化を図った。教職員が児童生徒に向き合う時間を少しでも多く確保するようにした。				
今後の方向性	新学習指導要領移行期間に入り、平成32年度の全面実施に向けて、各校での教職員の研修を支援できるよう、教育センターの各部会の研修内容の充実を図る。 校務支援システムと市学力調査Web評価システムを一層活用できるようにする。				
平成30年度 評 価 指 標	教職員に「事前研究会」と「授業研究会」についての満足度について尋ねる年度終盤に実施するアンケート（4段階評価）において、十分満足と概ね満足の合計が90%を超えるようにする。県学習状況調査の児童生徒アンケートで「学校生活に満足している（学校が楽しい）」の4段階評価で「4」の児童が70%、生徒が65%を超えるようにする。 実施時期を4月から1月に変更した市学力調査の実施時期を12月に変更し、引き続き年度内に回復指導を行うサイクルを確立する。				
学 識 経 験 者 の 意 見	大変頑張っている事業であり、今後もより効果の上がる方法を検討しながら、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

7 小・中学校パソコン導入事業				主管課	学校教育課
決 算 額	68,861 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (3) 予定どおり	2 (2) 高い	1 (4) 廃(休)止・終了
活 動 内 容	I C Tを活用して情報活用能力の育成と教科の学習目標の達成、及び校務の情報化処理に対応するため、パソコン（デスクトップ・ノート・タブレット）及び周辺機器の環境整備を年次計画（H26～H29）で実施した。 H29年度実施校：鷹巣中央小学校、鷹巣南小学校				
評 価 指 標	情報活用能力の育成を図るため、各学校のコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整える。 鷹巣中央小、鷹巣南小を実施する事により、全小・中学校の環境が整う。				
成果と課題	平成26年度から年次計画でタブレット型パソコンを導入、平成29年度で全小・中学校に導入され、校内において無線接続が可能となり情報通信の環境が整った。 【パソコン台数】 タブレット型パソコン台数 小学校：249台 中学校：195台 校務用パソコン台数 小学校：239台 中学校：142台 校務用パソコンの故障回数が増加傾向にあり、経年と共に故障回数の増加が予想される。				
今後の方向性	パソコン導入事業としては平成29年度で完了したため、一時休止とする。 今後は、故障に対して個別修繕で対応していく。				
平成30年度 評 価 指 標	(平成30年度休止のため設定なし)				
学識経験者 の 意 見	授業や校務に支障のないよう、定期的な機器更新を進めていってもらいたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

8 遠距離通学費補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	659 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	小学校4km以上、中学校6km以上の遠距離通学者のうち、公共交通機関を利用することが可能な児童生徒にバス定期券を現物支給した。 ・鷹巣南小（坊山・四渡） 3名 ・鷹巣南中（坊山・四渡） 2名 ・前田小（根森田・堺田） 5名				
評 価 指 標	通学の安全と保護者の負担軽減。				
成 果 と 課 題	バス定期券を対象児童生徒全員に交付したことで、通学の安全と遠距離通学児童生徒が義務教育を受ける上での費用負担の不均衡が緩和された。 平成32年度の鷹巣中学校と鷹巣南中学校の統合により、坊山・四渡方面から鷹巣中学校までのバス路線がないことから、スクールバス等への変更が考えられる。				
今後の方向性	児童生徒の通学の安全確保と遠距離通学児童生徒が義務教育を受ける上での費用負担の均衡の観点から事業を継続していく。				
平成30年度 評 価 指 標	通学の安全と保護者の負担軽減。				
学識経験者の 意 見	広大な行政面積を有する当市では有効な事業であり、今後の学校統合も計画されていることから、拡大も視野に継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)	2＝期待どおり(90%超)	3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)	2＝予定どおり(90%超)	3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い	2＝高い	3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了)	2＝縮小 3＝統合	4＝継続 5＝拡大

9 スクールバス運行事業				主管課	学校教育課
決 算 額	54,990 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (5) 拡大
活 動 内 容	遠距離通学者の交通手段として、スクールバス及びスクールタクシーを運行。 直営バス：11台 委託バス：2台 スクールタクシー：4台 小学校：10校（206人：17.2%） 中学校：5校（145人：22.7%）				
評 価 指 標	通学の安全と保護者の負担軽減。				
成果と課題	遠距離通学児童生徒が義務教育を受ける上での費用負担の不均衡が緩和されたが、スクールバス回送中とスクールタクシー運行中に各1件の事故が発生した。安全運行の徹底を図るために運転手会議を開催し、運行時間の妥当性、運行ルート安全性を常に確認していく。				
今後の方向性	学校の統廃合に向けて、スクールバス等の運行計画を検討した上で、バスの必要台数を確保していく。				
平成30年度 評 価 指 標	通学の安全と保護者の負担軽減。				
学識経験者の 意 見	広大な行政面積を有する当市では有効な事業であり、今後の学校統合も計画されていることから、拡大も視野に継続実施を図られたい。また、他市で実施している市民との混乗等より有効な利活用について検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

10

要保護・準要保護児童生徒援助費補助事業及び特別支援教育就学奨励費補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	30,630 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (3) 期待どおり	2 (3) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	教育の機会均等を図るため、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者や特別支援学級入級者の保護者に対し、適正な就学機会を提供する必要があることから援助を行う。準要保護の認定については生活保護基準額に1.3を乗じた額とする。 要保護児童生徒 小学校 4名 中学校 3名 102千円 準要保護児童生徒 小学校217名 中学校126名 28,825千円 特別支援児童生徒 小学校 12名 中学校 3名 476千円 新入学学用品費入学前支給 小学校 22名 中学校 33名 1,227千円				
評 価 指 標	関係機関との連携により、要保護世帯等の状況を速やかに把握し制度の活用を促す。				
成果と課題	就学援助を希望する保護者、認定者が増加傾向にあり、今後も続くと思われる。また、社会福祉協議会からの相談もあり、制度についての勉強会を実施した。「新入学学用品費」の入学前支給について、平成29年度入学者から実施しており、この制度について入学説明会やP T Aで保護者に説明をして活用を促していく。				
今後の方向性	援助を必要とする児童生徒が、安心して義務教育を受けることができるよう、事業を継続していく。				
平成30年度 評 価 指 標	保護者へ制度の説明と関係機関との連携で周知を図る。				
学識経験者の 意 見	該当する方が確実に利用できるよう、周知に努めながら継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)	2＝期待どおり(90%超)	3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下)	2＝予定どおり(90%超)	3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い	2＝高い	3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了)	2＝縮小	3＝統合
		4＝継続
		5＝拡大

11 学校生活サポート事業				主管課	学校教育課
決 算 額	43,504 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (5) 拡大
活 動 内 容	学習面や生活面において個別の配慮や支援の必要な児童生徒が学校生活に適応できることを目的として、小学校10校、中学校4校へ支援員を配置した。また、教職員と協力して適切な支援ができるよう、学級担任との合同研修会を実施した。 配置人数・・・小学校24名、中学校6名 対象児童生徒数・・・小学校78名、中学校24名				
評 価 指 標	一人一人の状況に応じた支援が行われ、対象児童生徒が学校生活に適応している。				
成果と課題	支援員を配置することにより、対象児童生徒が充実した学校生活を送ることができるほか、周囲の児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができることと、担任の負担が軽減され学級経営や授業づくりが充実することで、学校全体の教育効果を高めている。 支援員一人当たりの担当児童が5人になる小学校が1校、中学校が2校ある。また、支援員1人が複数学級を受け持っている現状から、支援員の充実を図っていく必要がある。				
今後の方向性	支援員を配置することにより、対象児童生徒が充実した学校生活を送ることができるほか、周囲の児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができることで、学級経営や授業づくりが充実するので継続する。				
平成30年度 評 価 指 標	一人一人の状況や学級の実態に応じた支援が行われ、対象児童生徒が学校生活に適応している。				
学識経験者の 意 見	非常に効果のある事業である。今後も小・中の連携（接続）を図りながら、支援員の増員も視野に継続実施に努められたい。				

【評価基準】

有効性・・・・・・1＝期待以下(90%以下)

費用対効果・・・1＝課題あり(90%以下)

必要性・・・・・・1＝低い

方向性・・・・・・1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

5＝拡大

3＝統合

12 学校保健事業				主管課	学校教育課
決 算 額	12,581 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	学校保健安全法に基づき、各校に学校医を委嘱し、児童生徒及び教職員の健康診断・各種検診及び健康相談を実施し、健康状態を把握することにより学校教育の円滑な実施を図った。 内科医12名、歯科医5名、眼科医1名、耳鼻科医3名、学校薬剤師12名を委嘱。 各種健康診断の実施実績 児童生徒 1,838名 受診率99.9%※在籍数1,840名 教職員 116名 受診率100% ※人間ドック除く 就学時健診 186名 受診率100%				
評 価 指 標	各校在籍児童生徒及び教職員に対して健康診断・各種検査等の実施や保健指導等により、健康状態の把握や疾病等への早期治療へ結び付ける。				
成果と課題	北秋田市医療団体との連携により健康診断及び各種検査等を円滑に実施することができた。また、北秋田市医療団体と業務協議会を開催し、学校保健等に関して意見交換することができた。				
今後の方向性	学校保健事業の円滑な実施に向けて、医療団体と連携を図り継続していく。				
平成30年度 評 価 指 標	児童生徒及び教職員の健康診断等の円滑な実施。 教職員のストレスチェックの実施。				
学識経験者 の 意 見	継続実施により、良好な職場環境、教育環境の維持を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小 3＝統合

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続 5＝拡大

13 学校安全整備事業				主管課	学校教育課
決 算 額	375 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	子どもたちが安心して登校できるよう、安全対策の一つとして新入学児童生徒に防犯ブザーを配付した。 熊の目撃情報が多発したことから、全小・中学校において警察署と猟友会による熊に対する安全教室を実施し、各学校で対応マニュアルを作成した。				
評 価 指 標	4月の学校始業時期での防犯ブザー配布と学校安全に係る情報提供等の徹底。				
成果と課題	4月の学校始業時に併せて、市内全中学校1年生に防犯ブザーを配付した。（新小学校1年生には、他団体より防犯ブザーが寄贈された。） 熊目撃情報や自然災害発生状況に対して、教育委員会と学校が情報共有を図った。				
今後の方向性	登下校時の安全対策として、新入学生に防犯ブザー配付を継続する。				
平成30年度 評 価 指 標	新入学児童生徒に防犯ブザーの配布と学校安全に係る情報提供等の徹底。				
学識経験者の 意 見	熊対策も必要となることから、現在の出没情報の連絡体制維持、強化を図りながら、児童生徒の安全確保に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

14 小・中学校備品整備事業				主管課	学校教育課
決 算 額	14,099 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	児童生徒の確かな学力の向上を図るために、各学校で選定した教材備品を整備した。また、学校図書についても蔵書内容の充実に努めた。 教材備品購入費：小学校 6,173千円 (10校) 中学校 2,518千円 (5校) 学校図書購入費：小学校 2,824千円 (10校) 中学校 2,584千円 (5校)				
評 価 指 標	子どもたちの教育環境を整備することにより、教育効果を高め、児童の基礎的基本的な学習理解に役立てる。				
成 果 と 課 題	教材備品については、各学校からの要望に対して整備することができた。 学校図書は各学校とも標準蔵書数に対して100%であるが、内容の充実に努める。				
今後の方向性	教育効果を高めるために教材備品等の整備を継続する。				
平成30年度 評 価 指 標	教材備品等について、学校要望のヒアリングを実施して有効的な整備を図る。				
学識経験者の 意 見	標準蔵書数100%を維持しながら、今後も古い蔵書の入替等児童生徒の教育効果を高める蔵書内容の充実に努めたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

15 児童生徒大会派遣費補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	9,539 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	小・中学校の部活動等において優秀な成績を収め、地区代表として全県大会以上の大会に出場する児童生徒・引率者に、交通費、宿泊費及び参加料を補助。 補助率 全県大会：7割 東北大会以上：10割 29年度補助件数 122件				
評 価 指 標	上位大会出場を目標とした活動に支援することで、児童生徒のやる気を促す。				
成果と課題	児童生徒が上位大会出場を目標にした意欲的な部活動等の取組に支援ができ、駅伝、スキー、ソフトテニス等で全国大会に出場するなどの活躍があった。				
今後の方向性	地域代表である高い意識や児童生徒のやる気を促すとともに、保護者の負担軽減を目的にしており、児童生徒の自己有用感の育成に有効であることから事業を継続していく必要がある。				
平成30年度 評 価 指 標	上位大会出場を目標とした活動に支援することで、児童生徒のやる気を促す。				
学識経験者 の 意 見	児童生徒の頑張りは地域を元気にすることにも繋がることから、継続実施を図りたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

16 不登校児童生徒対策事業				主管課	学校教育課
決 算 額	1,341 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市教育センター内に「北秋田さわやか教室」として、不登校児童生徒をサポートする適応指導教室を設置している。教職に携わったことのある教員免許取得者（非常勤職員）1名を配置し、学校や関係機関と連携しながら、学校復帰に向けた支援や学習指導を行う。				
評 価 指 標	さわやか教室への通級がきっかけとなり、学校への登校日数が増える。生活習慣が向上する。				
成 果 と 課 題	3名が在籍し、そのうち2名が通級し、1名が学校復帰していた。その1名は高校進学する事ができた。 通級している2名は学校に登校することもあるが短時間である。登校できる日数が増え、学習する時間が長くなるよう引き続き支援していく。				
今後の方向性	不登校(傾向) 児童生徒の居場所となり、学校復帰に向けた取組ができる重要な場として今後も継続する。				
平成30年度 評 価 指 標	さわやか教室への通級がきっかけとなり、学校への登校日数が増える。生活習慣が向上する。				
学 識 経 験 者 の 意 見	継続実施により、学校復帰に向けて取り組まれない。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

17 小・中学校楽器整備事業				主管課	学校教育課
決 算 額	2,683 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	年次計画で、各中学校（平成26年度は鷹小を含む。）における楽器を新規購入し、その整備・充実を図った。				
評 価 指 標	計画に沿って楽器の整備を行う。				
成 果 と 課 題	吹奏楽部（鷹巣小学校においては金管バンド部）の楽器を整備し、部活動の充実を図ることができた。 平成26年度 鷹巣小学校 森吉中学校 平成27年度 鷹巣中学校 平成28年度 阿仁中学校 平成29年度 合川中学校 平成30年度 鷹巣南中学校（予定） 年次計画事業のため、平成30年度まで継続していく必要がある。				
今後の方向性	平成30年度で事業を休止。学校統合を見据えて再度方向性を検討する。				
平成30年度 評 価 指 標	計画に沿って楽器の整備を行う。				
学識経験者 の 意 見	学校の要望等も踏まえ、今後の方向性を検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

新	18 小・中学校校務支援システム導入事業				主管課	学校教育課
	決 算 額	6,355 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
			— —	— —	— —	— —
	活 動 内 容	公募型プロポーザル方式によりシステムの賃貸借事業者を選定し、長期継続契約を締結。平成30年度本格運用に向けて、各学校のクラウド環境の整備、実務研修を実施した。				
	評 価 指 標	(平成30年度から本格運用のため設定なし)				
	成 果 と 課 題	(平成30年度から本格運用のため評価なし)				
	今後の方向性	教員の校務負担軽減と教育の質的向上を図るために事業継続する。				
	平成30年度 評 価 指 標	システム運用研修を実施し、教員の校務負担軽減と教育の質的向上に繋げる。				
	学識経験者 の 意 見	実務研修の継続実施により、校務負担の軽減を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

19 少子化対策・子育て支援事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	1,597 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (3) 高い	3 (4) 統合
活 動 内 容	保育園や小・中学校が実施する「家庭教育講座」の実施にかかる経費の負担 保育園4園:415名 小学校6校:245名 中学校1校:155名【合計11箇所:815名】 北秋田市子ども会育成連合会に補助金を交付した。				
評 価 指 標	平成29年度開催する「家庭教育支援チーム事業」と連携し、さらに、保護者が子育てへの不安を解消できるよう図る。				
成 果 と 課 題	家庭教育支援チームと連携して、保護者を対象とした子育て・食育に関する講話や親子で参加する運動教室等、各校のニーズに沿った講座の開催と家庭教育の大切さに対する認識を深めることができた。				
今後の方向性	当事業は、「家庭教育支援チーム推進事業」と「子ども育成支援事業」へ移行する。				
平成30年度 評 価 指 標	(事業移行のため設定なし)				
学識経験者 の 意 見	移行後の事業により、より成果を上げられたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

20 新成人事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	542 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内在住者及び市内中学校・大館国際情報学院中学校卒業者を対象とした成人式を実施。記念式典、記念講演(講師：株式会社kedama代表取締役の武田昌大氏)、記念撮影、二十歳のメッセージ集「はじめの一步」を作成して二十歳の門出を祝福した。 実行委員会を組織し、新成人自らが運営に参加している。				
評 価 指 標	新成人をお祝いし激励する式典を行い、新成人が郷土の良さを見直すきっかけづくりに努める。 新成人が積極的に成人式の準備にかかわるよう呼びかけ、若者の交流の機会にもなるよう努める。				
成 果 と 課 題	成人式実行委員会による自主運営を図り、しおりの作成や受付など新成人自らが運営に参加して成人の節目を祝うことができた。309名中242名(78%)の新成人が地元開催の成人式に出席しており、今後も地元に着目し愛着を持ち続けてもらいたい。				
今後の方向性	成人式の参加率を高めるとともに、より多くの成人が実行委員会に自主的に関わるようにする。				
平成30年度 評 価 指 標	自らで運営する成人式とするため、実行委員の参加者と全体の参加率を増やす。				
学識経験者 の 意 見	参加率が落ちてきている原因を探り、参加率を上げるための検討を図られたい。非常に素晴らしい式典なので、より多くの新成人に参加して欲しいと感じる。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

5＝拡大

21 日本語教室開催事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	457 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内で生活する外国の方を対象に年間48回の日本語教室を開催して、日本語の習得と日本文化の理解につながるようサポートした。				
評 価 指 標	現在、登録者が21人いるが、親しみやすい教室として継続を図っていく。				
成果と課題	日本語教室での学びが、自動車運転免許取得・日本語能力検定試験受験・2級ホームヘルパー講習受講などにつながっている。地元婦人会の旅行に参加する人もいるなど、日本語や日本文化の学びから北秋田市での生活に広がりをもてている。				
今後の方向性	継続して開催し、日本での生活が維持できるようサポートする。				
平成30年度 評 価 指 標	親しみやすい教室と参加し易い環境を整え、登録者の参加を増やす。				
学識経験者 の 意 見	継続実施を図りながら、登録者がより参加し易くなるよう検討されたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

22 高齢者教育事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	670 千円	有効性 (H29)	費用対効果 (H29)	必要性 (H29)	方向性 (H29)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内4地区（鷹巣・合川・森吉・阿仁）において、高齢者の学びの機会を充実させ、生きがいつくりや仲間づくりなど地域の活性化に努めた。 ・入学・開講式、全体講座、移動研修、卒業・閉講式 ・クラブ活動や学園祭（鷹巣地区のみ）などの活動が行われ学習意欲を高めた。				
評 価 指 標	9月に開催される「ねんりんぴっく」に向け、各高齢者大学が協力し合いながら「学園祭」を計画するなど、学びを活かした社会貢献活動も推進する。				
成 果 と 課 題	「ねんりんぴっく」の共催事業として、学園祭でプロ麻雀士によるトークショーの実施や健康麻雀コーナーの設置を行い好評であった。高齢者大学での活動をとおり、多くの学生が学び合い、生涯現役という気概が醸成され、新たな生きがいつくりにつながっている。今後は学んだ成果を地域に還元できるよう、講座運営やクラブ活動において、受講生がより主体的に取り組む必要がある。				
今後の方向性	引き続き、高齢者の生きがいつくりはもちろん、受講生個々の主体性を育むための学びの機会を提供する。				
平成30年度 評 価 指 標	高齢者の生きがいつくりや仲間づくりに向けた講座の開催と地域課題の解決・探求に向けた、グループワークの手法を取り入れた講座等を開催する。				
学識経験者 の 意 見	少ない予算で非常によく頑張っていると評価される。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

23 青少年育成事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	589 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	青少年育成北秋田市民会議・少年保護育成委員会は、非行防止活動や青少年の見守り活動を実施した。また、啓蒙意識を高めるため、青少年問題協議会では委員の活動報告や情報交換、研修会を開催した。 「大人がかわれば子どももかわる」(7月) 「大人が支える！インターネットセーフティ」(3月) 鷹巣南小学校において「防災キャンプ」を実施し、講話や避難所開設の体験をしている。				
評 価 指 標	「大人がかわれば、子どももかわる」をテーマに研修会を開催し、青少年を取り巻く環境について情報の共有を図るとともに、各団体とのネットワークを活用し、地域ぐるみで青少年健全育成を推進する。				
成果と課題	地域課題に合わせて研修会を開催したほか、情報交換をすることにより、青少年を取り巻く環境について、関係団体や行政機関との問題意識の共有を図ることができた。				
今後の方向性	地域の大人が青少年を育成するための課題や情報を共有する場の提供と、青少年の生きる力を育むための体験学習として、防災キャンプを開催する。				
平成30年度 評 価 指 標	育成団体等による情報交換や研修会等の開催と学校・地域の協働で防災キャンプを実施する。				
学識経験者 の 意 見	不可欠な事業であり、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

24 公民館管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	42,219 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (3) 高い	3 (4) 統合
活 動 内 容	坊沢公民館、合川駅前公民館、前田公民館の維持管理、栄公民館建設のための解体・造成工事を実施した。				
評 価 指 標	地域の拠点として、住民が活用しやすい環境づくりを図る。新築を計画中の栄公民館は平成30年度中の完成を目指す。				
成果と課題	坊沢公民館は1割(600名)以上の利用者増となるなど活況であるが、合川駅前公民館は利用が低調で老朽化も著しいことから、今後の在り方の検討が必要とされる。				
今後の方向性	合川駅前公民館は、廃止・統合等の方向性を検討する。 その他の公民館は、適切に維持管理し利用者の利便性向上に努める。				
平成30年度 評 価 指 標	・地域の拠点として住民が活用しやすい維持管理により利用者を増やす。 ・栄公民館を年度内に完成させる。				
学識経験者の 意 見	高齢者の活動拠点となり、なくてはならない施設なので、施設の維持管理に努めながら、ソフト事業の一層の充実を図られたい。 公民館までの移動手段の確保や、他自治体の取り組み等も参考に、多目的な利活用についても検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小 3＝統合

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続 5＝拡大

25 公民館講座開設事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	3,755 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	3 (2) 予想以上	2 (3) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	趣味・教養・課題解決のための講座など内容の充実に努めた。また、学んだことを地域活動に生かし、地域づくりへの人材育成を図った。				
評 価 指 標	市民の趣味、教養の向上のほかに、得た技術等を生かした生涯学習を推進するために、講座開設を工夫し、自立した人材育成を図る。				
成果と課題	市民の文化祭や生涯学習フェスタ等で発表することを通して、生涯学習に対する意識の向上につながった。鷹巣地区公民館は地域住民からの要望で講座を開設することもあり、6館で延べ1,500名以上が受講するなど盛況であった。類似した講座を継続するだけでなく、学びたい講座・学ばせたい講座をバランスよく設定する必要がある。				
今後の方向性	住民の要望に応えるような講座と学ばせたい講座を開催する。				
平成30年度 評 価 指 標	住民の要望に応えるような講座と学ばせたい講座を開催し、参加者を増やす。				
学識経験者 の 意 見	市民の学びの場の提供のため、内容充実、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

26 花いっぱい運動推進事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	369 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	花いっぱい運動推進協会が推進する「北秋田市花だんコンクール」の開催、各団体への花の種子配布や花だんづくりの講習会を開催して市の環境美化運動の支援に努めた。前田小学校と地域団体が協働して実施する植樹活動は、四季美湖周辺に市の花アジサイを50本植栽した。				
評 価 指 標	花だんコンクール等を通じて各団体等での環境整備を図りながら、市の花アジサイ植栽活動として、学校との協働活動も推進する。				
成 果 と 課 題	花づくりによる美しいまちづくりを目指し、小学生との協働で植栽活動を実施できた。花だんコンクールの参加団体数、個人参加者数が減る傾向にあることから、参加数を増やせるような取り組みを図っていく必要がある。  <団体の部で市長賞を受章した鷹巣南中学校の花だん>				
今後の方向性	花だんコンクールや地域と小学校が連携した植栽活動をとおして、花を育てることとで心が潤い、地域が元気になることを伝えてコンクール参加者を増やしたい。				
平成30年度 評 価 指 標	コンクールへの参加募集の周知方法を改善し、花だんコンクールの参加団体・参加者を増やす。				
学識経験者の 意 見	道端の花は潤いや安らぎをもたらすことから、取り組みの強化が望まれる。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

3＝統合

5＝拡大

27 農林業振興センター（鷹巣地区公民館）管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	21,667 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (2) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	七座、綴子、沢口、七日市公民館の維持管理に努め、施設利用者の利便性向上を図った。				
評 価 指 標	七日市公民館の屋根修繕など、市民が安心して利用できるよう適切な維持管理をする。				
成 果 と 課 題	予定されていた工事等は滞りなく遂行された。地域の拠点として利用しやすく、多くの市民に親しまれる公民館を目指し適切な管理が行われた。各公民館の老朽化が顕著なため、施設整備を年次計画で実施していかなければならない。 平成29年度は漏水が多発し、七日市公民館は最小限の経費で大規模な改修を行った結果、水道料金も下がった。。耐震診断等も順次実施していく必要がある。				
今後の方向性	老朽化が進んでおり、今後予定されてる耐震診断の結果を踏まえて大規模改修や建て替えなども検討する。				
平成30年度 評 価 指 標	大規模修繕、耐震診断の年次計画の作成				
学識経験者 の 意 見	高齢者の活動拠点となり、なくてはならない施設なので、施設の維持管理に努めながら、ソフト事業の一層の充実を図られたい。 公民館までの移動手段の確保や、他自治体の取り組み等も参考に、多目的な利活用についても検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

5＝拡大

28 農村環境改善センター（合川公民館）管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	8,192 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	合川公民館施設の維持管理に努め、施設利用者の利便性向上を図った。				
評 価 指 標	非常灯修繕を行い、利用者の安全確保の面で整備を進める。小中学校と保育園、児童クラブが隣接するエリアであることを活かし、市民の拠点としての施設の利活用を図る。				
成果と課題	適切な維持管理を行ったことで、講座やサークル活動、地域活動等で市民が安心して利用できた。				
今後の方向性	継続して維持管理に努める。				
平成30年度 評 価 指 標	非常放送設備改修工事及び和室雨漏改修工事の実施と適切な維持管理により、利用者を増やす。				
学識経験者 の 意 見	高齢者の活動拠点となり、なくてはならない施設なので、施設の維持管理に努めながら、ソフト事業の一層の充実を図られたい。 公民館までの移動手段の確保や、他自治体の取り組み等も参考に、多目的な利活用についても検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小 3＝統合

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続 5＝拡大

29 コミュニティセンター（森吉公民館）管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	8,675 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	森吉公民館施設整備の充実を図り、利用者の利便性向上に努めた。				
評 価 指 標	適切な維持管理を行うことで、市民が安心して利用できるようにする。				
成果と課題	施設利用者の安全確保と施設管理として、大ホールルーフドレン漏水修繕、機械室給水管漏水修繕で施設の保護ができた。また、冷温水循環ポンプ取替で冷房暖房が正常稼働できたことで市民が快適に利用することができた。				
今後の方向性	適切な維持管理を行い、市民が安心して利用できるよう環境を整えていく。				
平成30年度 評 価 指 標	適切な維持管理により、利用者を増やす。				
学識経験者の 意 見	高齢者の活動拠点となり、なくてはならない施設なので、施設の維持管理に努めながら、ソフト事業の一層の充実を図られたい。 公民館までの移動手段の確保や、他自治体の取り組み等も参考に、多目的な利活用についても検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

30 ふるさと文化センター（阿仁公民館）管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	8,845 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	公民館施設整備の充実と、定期講座の開催など学びの機会の拡充を図った。				
評 価 指 標	適切な維持管理を行うことで、市民が安心して利用できるようにする。				
成果と課題	適切な維持管理を行ったことで、講座やサークル活動、地域活動等で市民が安心して利用することができた。				
今後の方向性	継続して、施設内外の適切な維持管理に努める。				
平成30年度 評 価 指 標	適切な維持管理を行い、利用者を増やす。				
学識経験者 の 意 見	高齢者の活動拠点となり、なくてはならない施設なので、施設の維持管理に努めながら、ソフト事業の一層の充実を図られたい。 公民館までの移動手段の確保や、他自治体の取り組み等も参考に、多目的な利活用についても検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

31 陶芸ハウス管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	190 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		1 (1) 期待以下	1 (1) 課題あり	2 (2) 高い	4 (2) 継続
活 動 内 容	陶芸ハウス利用の充実を図るための維持管理と利用者増に向けた働きかけをした。				
評 価 指 標	地域を超えて、陶芸教室に通う市民もいることから、実際の利用状況を把握し、今後の方向性を検討する。				
成果と課題	あいかわ保育園児による陶芸体験は、創作の興味を育むことができた。今後も教育関係機関・関係団体と連携を図り、利用者を増やすこと、陶芸指導者の掘り起こしと育成が課題である。				
今後の方向性	合川小学校の正課クラブなど教育関係機関・関係団体に広く活用を呼びかけ利用の促進と、継続した維持管理に努める。				
平成30年度 評 価 指 標	指導者の確保と教育関係機関・関係団体に広く活用を呼びかけることで利用者を増やす。				
学識経験者 の 意 見	長年の課題解消には至っていないが、続けていくことが大切。数値化は難しいが、将来展望を立て、窯元に移住してもらい商売をしてもらうなど、大胆な発想も検討してはどうか。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

32 あいターミナル管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	1,192 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		1 (1) 期待以下	1 (1) 課題あり	2 (2) 高い	4 (2) 継続
活 動 内 容	あいターミナルを市民が安心して利用できるよう施設の維持管理を行った。				
評 価 指 標	上杉駅と隣接していることや、自治会の利用が多いことなど、地域の拠点としての活用方法を考えながら、市民向けの講座等も工夫する。				
成果と課題	初心者向けP C講座、年賀状作成講座や親子向け映育講座（自分で撮影した映像をパソコンで編集）を開設し、市民の利用を図った。上杉自治会の拠点としての機能をあわせもつことから、今後の利活用方法や管理運営について検討を必要とする。 (* 映育は、体育・知育・食育などと同様に、写真や映像、その道具としてカメラを通して子ども達の豊かな感性を育み、情操教育に寄与する。)				
今後の方向性	維持管理及び環境整備に努め、市民向けP C講座を開催する。				
平成30年度 評 価 指 標	施設の利用者とP C講座への参加者を増やす。				
学識経験者 の 意 見	有効性が向上するような更なる利活用を図られたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

33 北秋田市民ふれあいプラザ管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	36,875 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		3 (3) 期待以上	3 (3) 予想以上	3 (3) 不可欠	5 (4) 拡大
活 動 内 容	中心市街地の拠点として、「憩い」「交流」「にぎわい」をコンセプトに、市民向け講座等のほか、イベント利用者・自由来館者が快適に過ごせるよう施設の維持管理を行った。「北秋田市民ふれあいプラザ」愛称「コムコム」は、オープンから2年目の平成30年3月28日には来館者50万人に達した。また、災害時の避難所となった場合を想定した非常用発電設備の設置も事業化した。				
評 価 指 標	「憩い」「交流」「にぎわい」をコンセプトに、多くの方々に利用されるよう、維持管理を徹底する。				
成果と課題	利用される方のニーズに合わせた適切な管理運営を行い、来館者の増加に繋がった。チャレンジブースの使用ルールを整備しなければならない。				
今後の方向性	建設時の想定以上の利用者数となっており、引き続き中心市街地の活性化を図る拠点施設として、市民に親しまれる管理運営に心がける。非常用発電設備も完成間近となり、災害避難所としての役割も担っていく。使用のしおりの完成とチャレンジブースの使用ルールを決めることが必要である。				
平成30年度 評 価 指 標	・「憩い」「交流」「にぎわい」をコンセプトに、多くの方々に利用されるような、維持管理により、市民の声を取り入れながら随時改良を重ねて愛される施設を目指して、利用者を増やす。 ・使用のしおり、使用のルールを策定する。				
学識経験者 の 意 見	非常に素晴らしいと感じる。今後は運営協議会に高校生も入れ、自由に使う中で自分たちのルールを決めさせることも検討してはどうか。また、係員として常駐するなどの仕組み作りについても検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

34 放課後児童健全育成事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	84,314 千円	有効性 (H29)	費用対効果 (H29)	必要性 (H29)	方向性 (H29)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内10箇所、15児童クラブ実施（うち6クラブは社会福祉協議会に運営委託） 延登録児童数は616人。 保護者が仕事等により留守にする家庭の児童について、放課後等において必要な保育を行い、健全な育成を図るため放課後児童クラブを開設した。				
評 価 指 標	就労家庭への支援事業である学童保育として、児童の安全を第一に、異年齢児との交流を図りながら、放課後子ども教室との連携により、地域ぐるみで児童の安心安全や健全育成を推進する。				
成果と課題	放課後児童クラブにおいて、子ども達が安心安全に過ごせるよう、指導員の不足人員の確保を行った。今後も継続して事業を行うため、人材の育成が要である。				
今後の方向性	学校の統廃合に合わせて、必要な施設の改修・整備計画を策定し、持続的な事業の継続を目指す。				
平成30年度 評 価 指 標	・放課後子ども教室との連携により、地域ぐるみで児童の安全や健全育成を推進し、利用者を増やす。 ・学校統合にあわせた整備計画を作成する。				
学識経験者 の 意 見	なくてはならない事業であり、非常に子育てに力を入れていると評価される。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

35 放課後子ども教室推進事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	8,988 千円	有効性 (H29)	費用対効果 (H29)	必要性 (H29)	方向性 (H29)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	放課後子ども教室推進事業10教室実施 いきいきタイム（鷹巣、栄、綴子、沢口、七日市、合川、米内沢、前田、阿仁合、大阿仁）延べ参加人数 6,650名 放課後等に、地域住民の参画を得て、ふるさと学習や体験活動等の機会を提供した。また、放課後児童クラブとの一体型運営を7箇所（鷹巣・中央・合川・米内沢・前田・阿仁合・大阿仁）に拡充し、安心安全な居場所づくりを推進した。				
評 価 指 標	就労家庭への支援事業である学童保育と、放課後子ども教室との連携を図り、地域ぐるみで児童の学習活動や自然体験活動を推進する。				
成果と課題	地域人材を活用した体験活動の推進を図り、子ども達がのびのびと過ごしながら地域の良さを知る活動や異学年交流を推進することができた。しかし、子どもの体験学習を支援する支援員が、多忙化や高齢化、家庭の事情等から辞退するケースがあり、そのため実施回数が減っている。子ども達の放課後の体験活動の充実を図るためにも人材の確保が喫緊の課題となっている。				
今後の方向性	子ども達に地域の自然や文化を教えることで、地元の魅力を伝えていくような取り組みとするため、人材を確保して活動回数を維持する。				
平成30年度 評 価 指 標	放課後児童クラブとの連携で児童の学習活動や自然体験活動の実施と地域学習を指導できる人材を確保する。				
学識経験者の 意 見	非常によい事業であり、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小 3＝統合

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続 5＝拡大

36	地域学校協働本部事業（学校支援活動） （前：学校支援地域本部事業）			主管課	生涯学習課
決 算 額	864 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内の全ての学校において地域と学校が連携して活動した。地域の人材を活用した学習活動、環境の整備、学習支援、クラブ活動の支援、体験活動や地域探検、登下校時の見守りなど様々な分野で支援と活動を行った。				
評 価 指 標	地域ぐるみで人材を育成する仕組みを構築し、地域から学校への支援体制ではなく、学校と協働する活動を推進する。				
成果と課題	地域と学校が共に人材育成に関わり、子ども達の学習や体験活動の支援を充実させることができた。今後は、ふるさとの良さを知る体験や学習の機会を増やすために、地域と学校の協働体制を更に深めるとともに、学校を支える地域人材の育成を図っていききたい。 ※補助実施校 2校（鷹巣小・合川小） ※単独実施校 上記以外13校				
今後の方向性	地域協働の意識の共有を図るために、学校、市民、コーディネーター、公民館等と一緒に話し合える熟議の場を設け、中学校区ごとの課題の共有を図る。				
平成30年度 評 価 指 標	・課題や情報を共有する機会を提供する。 ・学校と地域との協働活動の成果をまとめる。				
学識経験者の 意 見	教育効果の高い事業であり、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

37 家庭教育支援チーム推進事業

新

決 算 額	856 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 ー 期待どおり	2 ー 予定どおり	2 ー 高い	4 ー 継続
活 動 内 容	親の学びや育ちを応援するため、地域の多様な人材で構成する「家庭教育支援チーム」を設置し、講演会等の開催により家庭教育に関する情報提供を行ったほか、チーム員への継続的な研修機会の提供により、地域全体で家庭教育を支援するための体制づくりを図った。				
評 価 指 標	家庭教育支援チームの意識向上のための研修と父親の育児参加の促進と親子での交流機会の提供を目的にイベントを開催する。				
成 果 と 課 題	平成29年度は父親の育児参加促進と親子での交流機会の提供を目的に、市全体を対象とした絵本ライブや研修会を実施したが、今後、保育園や小中学校・地域単位における課題に対応するため、各園・学校単位での家庭教育講座の開催やニーズ把握に努める必要がある。				
今後の方向性	家庭教育講座については、「家庭教育支援チーム推進事業」として、保育園・学校と家庭教育支援チームの協働により講座を行う。				
平成30年度 評 価 指 標	保育園・学校と家庭教育支援チームの協働による講座を開催する。				
学識経験者 の 意 見	要望を把握し、より参加し易くなるよう工夫しながら実施に努められたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

38 伊勢堂岱遺跡見学環境整備事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	23,571 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	1 (4) 廃(休)止・終了
活 動 内 容	平成23年度からの計画に基づき事業を行った。遺跡の配石遺構保存処理委託と橋梁護岸工事を実施後に伊勢堂岱遺跡環境整備事業報告書を作成し、平成29年度で整備事業を完了した。				
評 価 指 標	世界遺産登録に向けた準備と伊勢堂岱遺跡見学者の利便性を向上させていくことにより、見学環境を整える。				
成 果 と 課 題	伊勢堂岱遺跡の配石遺構保存処理が終了し、合わせて橋梁の護岸工事をしたことにより見学環境が整い集客が望めるようになった。				
今後の方向性	(平成29年度で事業終了)				
平成30年度 評 価 指 標	(平成29年度で事業終了)				
学識経験者 の 意 見	今後も見学者の利便性向上のため、見学環境の維持管理に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

39 伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	424 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (4) 拡大
活 動 内 容	世界遺産登録に向け、北海道・北東北縄文遺跡群の世界遺産に向けた登録推進事業の経費を負担することにより、遺跡の価値について情報発信を行った。				
評 価 指 標	世界遺産登録に向けた推進事業の経費を負担することにより、遺跡の価値について情報発信を行う。				
成果と課題	世界遺産登録に向け、北海道・北東北縄文遺跡群の世界遺産に向けた登録推進事業の経費を負担することにより、事業の円滑な執行を図ることができた。				
今後の方向性	世界遺産登録を目指す。（国内推薦の決定、国からユネスコへ推薦書提出、専門機関による現地調査、ユネスコでの審議、登録決定の流れで2年ほどかかる。）				
平成30年度 評 価 指 標	世界遺産登録に向けた推進事業の経費を負担することにより、遺跡の価値について情報発信を行う。				
学識経験者の 意 見	もっと市民に周知するためにも、今後の世界遺産登録に向けたスケジュールや自然遺産と競合していること等もっとPRしてはどうか。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

40 縄文まつり開催事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	300 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	3 (2) 予想以上	3 (2) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	第17回縄文まつりを開催し、縄文文化及び伊勢堂岱遺跡の情報発信と各種の体験事業を行い参加者の交流を図った。 体験事業：①土器・土偶づくり ②勾玉づくり ③縄文料理 ④的当て ⑤グッズ販売 ⑥ミニコンサート ⑦縄文館見学 など				
評 価 指 標	北秋田市の宝である伊勢堂岱遺跡の重要性を、子どもをはじめ市民に理解してもらい、ふるさとに愛着と誇りを感じてもらう。				
成 果 と 課 題	遺跡は閉鎖していたがいのしし鍋とバス運行の実施により、縄文文化及び伊勢堂岱遺跡を市内外の約300名に情報発信することができた。伊勢堂岱遺跡に来たことのない市民にも、足を運んでもらうよう情報発信する。				
今後の方向性	継続して実施することで、世界遺産登録に向け機運を高める。				
平成30年度 評 価 指 標	北秋田市の宝である伊勢堂岱遺跡の重要性を、子どもをはじめ市民に理解してもらい、ふるさとに愛着と誇りを感じてもらうと共に、世界遺産登録に向け機運を高める。				
学識経験者 の 意 見	No39伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業と一体的に実施しているので、方向性は拡大とすべきではないか。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

41 交流センター管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	14,446 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (2) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市民の交流や活動の拠点施設として活用され、管理委託・清掃委託及び各種保守点検委託による維持管理を実施した。				
評 価 指 標	市内外から利用され、地域活動の拠点として活用される施設維持を行う。				
成果と課題	適切な維持管理と補修を行うことで市民の方々の交流の場と活動の拠点としての役割を担うことができた。また、第3研修室の畳修繕と館内の時計修繕を実施したことにより、利用環境の向上が図られた。今後も市内外の利用者が研修や会議を行う施設として使用できるよう適切な管理を行う。				
今後の方向性	継続して市内外から利用され、地域活動の拠点施設として活用されるようにする。				
平成30年度 評 価 指 標	市内外から利用され、地域活動の拠点として活用される施設維持を行う。				
学識経験者 の 意 見	地域活動の拠点として活用されるよう維持管理に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

新	42 交流センター改修事業				主管課	生涯学習課
	決 算 額	16,740 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
			2 ー 期待どおり	2 ー 予定どおり	3 ー 不可欠	4 ー 継続
	活 動 内 容	市民の交流や活動の拠点施設として、使用できるよう施設の設備改修を行う。				
	評 価 指 標	市民の交流や活動の拠点施設として活用されよう施設の設備改修を行う。				
	成果と課題	暖房用温水器取替工事と電気設備改修工事を行ったことにより、利用者が快適に使用できる環境が整った。 講堂と第1研修室の冷房について、改修が必要となっているため平成30年度に行う予定である。				
	今後の方向性	長期的な視点で今後必要となる改修について、計画を立て改修を行う。				
	平成30年度 評 価 指 標	市民の交流や活動の拠点施設として活用されるよう施設の設備改修を行う。				
	学識経験者 の 意 見	地域活動の拠点として活用されるよう維持管理に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

43 図書館事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	15,417 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (4) 拡大
活 動 内 容	市民の学習施設として学習の場を提供できるよう、施設の維持管理と図書の充実を図った。				
評 価 指 標	図書の充実と利用者の利便性やサービスの向上に努め、利用者を増やす。				
成果と課題	図書館・図書室等と県立図書館など相互協力を図り、本の取り寄せなどのサービスを行った。また、図書資料について図書館協議会や利用者から意見をもらい充実に努めた。今後もPR活動に力を入れ、図書館を利用したことがない人にも足を運んでもらう。				
今後の方向性	図書館OAシステムの更新時期を迎えることから、事業費が増加する予定。				
平成30年度 評 価 指 標	図書の充実と利用者の利便性やサービスの向上に努め、利用者を増やす。				
学識経験者 の 意 見	若い年齢層の方も利用し易いよう、OA機器を充実させ、鑑賞スペースを設けているところもあるので参考にしてみよう。 また、県立図書館からの借入れや大学経由で国立図書館の本も借りられることなど、広く周知し、利用拡大を図ってはどうか。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性………1＝低い

方向性………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小 3＝統合

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続 5＝拡大

44 文化会館管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	34,005 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市民が芸術文化の活動に参加できるよう施設の維持管理を行った。				
評 価 指 標	市民が芸術・文化活動に使用できるよう施設の維持管理を行う。				
成果と課題	適切な維持管理や保守点検等を行うことにより、市民の方々が安心して利用できる施設や設備を維持できた。また、市の文化祭の開催や市内外の芸術活動の発表の場として活用され、芸術文化の振興が図られた。今後も市民に喜ばれるよう多様な事業の実施が必要。				
今後の方向性	市内にある唯一の文化施設として、活用の充実と長期的に使用できるよう維持管理を行う。				
平成30年度 評 価 指 標	市民が芸術・文化活動に使用できるよう施設の維持管理を行う。				
学識経験者 の 意 見	芸術・文化活動の拠点として維持管理を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

新	45 文化会館改修事業				主管課	生涯学習課
	決 算 額	24,298 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
			3 ー 期待以上	2 ー 予定どおり	3 ー 不可欠	4 ー 継続
	活 動 内 容	トイレ改修工事、屋根防水改修工事、プラグコンセントC型化工事を行った。				
	評 価 指 標	市民が安心して芸術・文化活動できるよう施設の改修を行う。				
	成果と課題	トイレ改修工事、屋根防水改修工事、舞台のプラグコンセントをT型からC型に変更する工事を行ったことにより、利用者が安全で快適に使用できる環境が整った。現在、改修が必要とされている舞台関係設備がある。				
	今後の方向性	今後は改修が必要とされている舞台関係設備について計画的に改修を行う。				
	平成30年度 評 価 指 標	市民が安心して芸術・文化活動できるよう施設の改修を行う。				
	学識経験者 の 意 見	芸術・文化活動の拠点として維持管理を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

46 みちのく子供風土記館管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	313 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	3 (2) 予想以上	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	直木賞作家であった渡辺喜恵子氏の顕彰する建物であり、市民の交流活動の拠点として利用されるよう施設の維持管理を実施し、利用の向上に努めた。				
評 価 指 標	市民が学習や交流の場として使用できるよう施設の維持管理を行う。				
成果と課題	適切な維持管理を行ったことで、市民に気軽に利用できる施設としての役割を果たした。早くから予約を入れる特定の団体だけでなく、施設周辺の町内会や子ども会等が使用したい時に使用できるよう工夫が必要である。				
今後の方向性	適切な維持管理を行い、市民に学習や交流の場の提供を行う。				
平成30年度 評 価 指 標	市民が学習や交流の場として使用できるよう施設の維持管理を行う。				
学識経験者 の 意 見	継続実施していくことに意義のある事業であると考えている。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

47 浜辺の歌音楽館運営事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	14,223 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		1 (2) 期待以下	1 (2) 課題あり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	成田為三先生の業績や作品を音楽博物館として顕彰し、後世に引き継いでいくため施設の維持管理を実施した。また、定期演奏会・墓前演奏会・少年少女合唱団コンサートを実施し、成田為三先生の音楽に触れる機会の充実に努めた。				
評 価 指 標	成田為三の作品を後世に引き継いでいく音楽博物館として施設の維持管理を行う。				
成 果 と 課 題	適切な維持管理を行ったことで、定期演奏会・少年少女合唱団コンサートを実施し、成田為三先生の音楽に触れる機会となった。入館者を増やすための仕組みが必要である。				
今後の方向性	市民に身近に感じてもらえる施設を目指し、市民の音楽活動に対する施設利用や特別展示、物販等を行う。				
平成30年度 評 価 指 標	成田為三の作品を後世に引き継いでいく音楽博物館として施設の維持管理を行う。				
学識経験者 の 意 見	市民が定期的に歌う場所としたり、浜辺の歌の全国コンクール実施、お土産品の販売等検討してはどうか。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

48 浜辺の歌音楽祭開催事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	389 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	成田為三先生の功績をたたえ作品を後世に引き継いでいくため、児童生徒及び一般の合唱団を対象に第12回浜辺の歌音楽祭を開催した。 参加団体：19団体				
評 価 指 標	成田為三の作品を後世に引き継ぐため、子どもから一般の合唱団を対象に音楽祭を開催する。				
成果と課題	参加者に成田為三の作品をより身近に感じてもらうことができた。また、発表の場を設けることで相互の音楽活動の資質の向上が図られた。慣例により、出演者の席を確保することにより、一般の観客が少ないため工夫が必要である。				
今後の方向性	出演団体数の維持に努めながら一般の観客を増やし、成田為三の作品を後世に引き継いでいく。				
平成30年度 評 価 指 標	成田為三の作品を後世に引き継ぐため、子どもから一般の合唱団を対象に音楽祭を開催する。				
学識経験者 の 意 見	継続実施していくことに意義のある事業であると考える。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

49 文化祭開催事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	1,990 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	北秋田市の芸術文化の祭典として、平成29年度文化祭を開催し、展示部門（48団体）と演示部門（1,128点）を実施した。開催にあたり、文化祭実行委員会に運営費を補助した。				
評 価 指 標	市民へ芸術・文化活動の発表機会を提供する。				
成果と課題	市民に芸術・文化の発表と文化交流の場を提供することで、市内における文化の活性化と振興が図られた。見るだけでなく、文化を体験できる機会の提供が必要とされている。				
今後の方向性	市民へ芸術・文化活動の発表機会の提供と、文化を体験できる機会の提供。				
平成30年度 評 価 指 標	市民へ芸術・文化活動の発表機会の提供する。				
学識経験者 の 意 見	更なる創意工夫により、文化振興を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

3＝統合

5＝拡大

50 伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	23,236 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (5) 継続
活 動 内 容	伊勢堂岱遺跡の理解を深めるとともに、その魅力と情報を発信する施設の維持管理を行った。				
評 価 指 標	伊勢堂岱遺跡の理解を深めるための情報発信施設の役割を果たし、来館者を増やす。				
成 果 と 課 題	適切な維持管理を行ったことで、伊勢堂岱遺跡の情報発信施設としての役割を果たした。また、遺跡内の立木伐採委託及び草刈委託、縄文館周囲に電気柵設置委託、縄文館への防犯カメラ設置工事、遺跡外周への電気柵設置工事などの熊対策を行い、来館者が安心して見学できる環境が整った。平成29年度に実施した熊対策を有効に維持していく必要がある。				
今後の方向性	来館者が安心して見学できる環境を維持しながら、伊勢堂岱遺跡の理解を深めるための情報発信施設の役割を果たす。				
平成30年度 評 価 指 標	伊勢堂岱遺跡の理解を深めるための情報発信施設の役割を果たし、来館者を増やす。				
学識経験者の 意 見	伊勢堂岱遺跡の情報発信施設として、維持管理を図られたい。また、展示内容の工夫等により、何度でも足を運んでもらえる施設となるよう努められたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小 3＝統合

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続 5＝拡大

51 胡桃館遺跡埋蔵資料等管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	165 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (4) 拡大
活 動 内 容	国指定文化財である胡桃館遺跡出土遺材の保存管理を行った。				
評 価 指 標	出土遺材の適正な保存管理を行い、現状を維持する。				
成果と課題	後世に引き継ぐため、保存管理を行うことで出土品の風化・劣化を防ぐことができた。まだ遺跡の範囲が確定していないため、確定作業を求められている。				
今後の方向性	出土遺材の保存管理を適切に行い、遺跡の範囲を確定し、国の指定を受ける。				
平成30年度 評 価 指 標	出土遺材の保存管理を行い、現状を維持する。				
学識経験者の 意 見	全国的にみても学術性の高い遺跡であり、伊勢堂岱遺跡に次ぐ第二の目玉となりうる。国、県と連携を図りながら、発掘事業実施についての検討も図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

52 文化財保護事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	6,678 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	文化財保護審議会の開催や文化財の修繕等維持管理を行った。				
評 価 指 標	市内の文化財の維持管理、文化財の保護などを行う。				
成果と課題	文化財保護審議会の開催や文化財の金家、長岐邸等の維持管理を行うことで文化財の保護が図られた。指定文化財の現状確認、古文書の集約と適切な保存が必要とされている。				
今後の方向性	文化財の維持管理、文化財の保護、指定文化財の現状確認、古文書の集約と適切な保存を行う。				
平成30年度 評 価 指 標	市内の文化財の維持管理、文化財の保護などを行う。				
学識経験者 の 意 見	継続して維持管理を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小 3＝統合

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続 5＝拡大

53 民俗芸能大会事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	377 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		3 (2) 期待以上	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	北秋田市民俗芸能大会を開催し、北秋田市に伝承されている民俗芸能等を広く市民に公開するとともに、民俗芸能伝承活動とあわせて技量の向上に努めた。 出演団体：①阿仁前田獅子踊保存会②福田獅子舞保存会③阿仁からめ節保存会④綴子下町大太鼓保存会⑤富根報徳番楽保存会（能代市）				
評 価 指 標	民俗芸能団体へ発表の場を提供し、民俗芸能の保存と伝承を行う。				
成果と課題	初めてコムコムを会場に実施し、舞台と観客席が近く迫力ある民俗芸能大会になった。出演者からは、文化会館と比べて舞台が狭く、照明が使えないので演技が映えないとの意見があったため、次回は文化会館での開催とすることとした。観客の反応が非常に良かったことで伝承者の意欲と技量の向上につながった。他市町村の民俗芸能団体の出演により、出演者の交流を図るとともに、市民に鑑賞してもらう機会を提供出来た。				
今後の方向性	出演団体を変更しながら、継続して開催する。				
平成30年度 評 価 指 標	民俗芸能団体へ発表の場を提供し、民俗芸能の保存と伝承を行う。				
学識経験者 の 意 見	伝承につなげるために、様々な手法を検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

54 新	鷹巣体育館外壁等改修事業				主管課	スポーツ振興課
	決 算 額	22,044 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
			2 ー 期待どおり	2 ー 予定どおり	2 ー 高い	1 ー 廃(休)止・終了
	活 動 内 容	メイン体育館入口側（北側）外壁及びサブ体育館の外壁改修を行った。				
	評 価 指 標	メイン体育館の外壁落下防止による安全対策、及びサブ体育館の長寿命化を図る。				
	成果と課題	利用者の安全確保、安心して利用できる環境確保と施設の長寿命化を図ることができた。				
	今後の方向性	(平成29年度で事業終了)				
	平成30年度 評 価 指 標	(平成29年度で事業終了)				
	学識経験者の 意 見	競技基準を満たさなくなっている事例も見られることから、今後の修繕、改修、建替えについても前向きに検討されたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

新	55 中央公園野球場フェンス改修事業				主管課	スポーツ振興課
	決 算 額	58,607 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
			2 ー 期待どおり	2 ー 予定どおり	2 ー 高い	1 ー 廃(休)止・終了
	活 動 内 容	防護フェンス、ネットフェンス及び管理棟の改修を行った。				
	評 価 指 標	利用者の安全確保と施設の長寿命化に向けた維持管理に努める。				
	成果と課題	防護フェンス、ネットフェンスの老朽化設備の改修により、選手及び観客の安全確保と施設の長寿命化が図られた。    全景 内野（1塁側） 外野（ライト～センター）				
	今後の方向性	(平成29年度で事業終了)				
	平成30年度 評 価 指 標	(平成29年度で事業終了)				
	学識経験者 の 意 見	利用者の安全確保と施設の長寿命化に向け、維持管理に努められたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小 3＝統合

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続 5＝拡大

56 北秋田市民プール管理運営事業				主管課	スポーツ振興課																
決 算 額	18,900 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)																
		2 (3) 期待どおり	3 (2) 予想以上	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続																
活 動 内 容	指定管理制度による公の施設の管理運営事業。 平成27年度から平成31年度までの5年間の指定管理者を選定した。																				
評 価 指 標	幅広い年代の健康増進及び交流施設としての維持に努める。																				
成果と課題	施設利用人数は平成26年度45,704名、平成27年度52,205名、平成28年度54,215名、平成29年度には55,887名となっている。その内施設内で開催するプール、トレーニングルームを活用した各種教室の参加人数も平成26年度12,048名、平成27年度14,024名、平成28年度14,866名、平成29年15,106名と年々増加傾向にあることから指定管理者による運営成果が現れている。 しかし建設から10年を経過していることからトレーニング機器・設備の維持更新等について計画を定め連携し運営に努めたい。 (人) 北秋田市民プール利用者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>利用者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>H23</td><td>43,912</td></tr><tr><td>H24</td><td>45,266</td></tr><tr><td>H25</td><td>48,309</td></tr><tr><td>H26</td><td>45,704</td></tr><tr><td>H27</td><td>52,205</td></tr><tr><td>H28</td><td>54,215</td></tr><tr><td>H29</td><td>55,887</td></tr></tbody></table>					年度	利用者数	H23	43,912	H24	45,266	H25	48,309	H26	45,704	H27	52,205	H28	54,215	H29	55,887
年度	利用者数																				
H23	43,912																				
H24	45,266																				
H25	48,309																				
H26	45,704																				
H27	52,205																				
H28	54,215																				
H29	55,887																				
今後の方向性	建物及び設備の長寿命化を図るため計画的な維持管理に努める。																				
平成30年度 評 価 指 標	幅広い年代の健康増進及び交流施設としての維持に努める。																				
学識経験者の 意 見	特に高齢者のプール利用については、間接的に医療費の削減にもつながっており、大変よいと評価される。人口減少に逆行し、利用者が増加していることに非常に驚いている。																				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小 3＝統合

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続 5＝拡大

57 薬師山スキー場管理運営事業				主管課	スポーツ振興課																
決 算 額	3,830 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)																
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続																
活 動 内 容	指定管理制度による公の施設の管理運営事業。 平成27年度から平成31年度までの5年間を引き続き自治会を指定管理者とし管理運営を行っている。																				
評 価 指 標	季節及び地域特有のスポーツ施設として継続するための経営維持に期待する。																				
成果と課題	12月下旬から3月中旬までと昨シーズンに比べ長い期間営業することができたが、強風等により天候に恵まれず稼働日数は68日に留まったが、ファミリーゲレンデの整備などを充実したことで利用人数も8,953名と2倍近い数客数となった。 また、ミニバイアスロン東北大会やスキースプリント選手権を開催、夏場にはクロスカントリーコースとして整備し、秋田北鷹高校スキー部や小・中学校生のトレーニングの練習に使用されており利用者増加への努力がみられる。 指定管理制度で地域自治会が運営することで、様々なサービスを提供することが可能となり、地域の活性化や地域コミュニティの醸成が図られている。 今後は、ナイター設備等の経年劣化による更新が課題となっている。 (人) 薬師山スキー場利用者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>利用者数 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H23</td><td>13,540</td></tr><tr><td>H24</td><td>9,112</td></tr><tr><td>H25</td><td>7,711</td></tr><tr><td>H26</td><td>14,526</td></tr><tr><td>H27</td><td>5,903</td></tr><tr><td>H28</td><td>4,899</td></tr><tr><td>H29</td><td>8,953</td></tr></tbody></table>					年度	利用者数 (人)	H23	13,540	H24	9,112	H25	7,711	H26	14,526	H27	5,903	H28	4,899	H29	8,953
年度	利用者数 (人)																				
H23	13,540																				
H24	9,112																				
H25	7,711																				
H26	14,526																				
H27	5,903																				
H28	4,899																				
H29	8,953																				
今後の方向性	指定管理事業者と連携し、施設維持に努める。																				
平成30年度 評 価 指 標	季節及び地域特有のスポーツ施設として継続するための経営維持に期待する。																				
学識経験者 の 意 見	雪のない時期の管理ハウス利用により、オールシーズン使用するということも検討してはどうか。また、草刈後のアートを見に来る方もいるようなので、利用者とは別口でカウントしてみてもよいのではないかな。																				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

3＝統合

5＝拡大

58 100キロチャレンジマラソン大会補助事業				主管課	スポーツ振興課																
決 算 額	3,000 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)																
		2 (2) 期待どおり	3 (3) 予想以上	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続																
活 動 内 容	大会運営のため補助金を交付し、円滑な大会運営と参加者の交流及び地域の活性化を図った。																				
評 価 指 標	100キロの部1,350名、50キロの部350名（定員1,700名）																				
成果と課題	県内外から100キロの部に1,125名、50キロの部に344名、合計1,469名のランナーが参加し、秋田県を始め、仙北市、北秋田市、上小阿仁村、自衛隊、消防、企業、ボランティア（約1,900名）の協力により実施され成功裡に終了した。 地域のイベントとして定着しており、経済効果とともに参加ランナー及び地域住民の交流と地域の活性化が図られた。 全国で100キロマラソンとついた大会が増えてきており参加者が減少傾向にあること、またボランティアの高齢化やスタッフ等の後継者不足が課題となっている。 (人) 100キロチャレンジマラソン参加者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>参加者数(人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H23</td><td>1,639</td></tr><tr><td>H24</td><td>1,708</td></tr><tr><td>H25</td><td>1,726</td></tr><tr><td>H26</td><td>1,603</td></tr><tr><td>H27</td><td>1,702</td></tr><tr><td>H28</td><td>1,500</td></tr><tr><td>H29</td><td>1,469</td></tr></tbody></table>					年度	参加者数(人)	H23	1,639	H24	1,708	H25	1,726	H26	1,603	H27	1,702	H28	1,500	H29	1,469
年度	参加者数(人)																				
H23	1,639																				
H24	1,708																				
H25	1,726																				
H26	1,603																				
H27	1,702																				
H28	1,500																				
H29	1,469																				
今後の方向性	大会の継続に向け、実行委員会・秋田県・仙北市と連携し継続開催に努める。																				
平成30年度 評 価 指 標	100キロの部1,350名、50キロの部350名（定員1,700名）																				
学識経験者の 意 見	秋田県として絶対になくされない大会である。スタッフ等の高齢化、後継者不足が大きな課題であるが、参加料の値上げも検討しながら、継続実施を図っていただきたい。 宿泊施設が少ないという課題についても、広く横断的に検討されたい。																				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果…1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

5＝拡大

59 北秋田市スキー大会等補助事業				主管課	スポーツ振興課
決 算 額	1,537 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	北秋田市スキー大会実行委員会が実施するスキー大会開催のため補助金を交付し、事業の円滑な運営と雪国の特性を活かしたスポーツ活動の推進を図った。				
評 価 指 標	季節・地域特有の自然環境におけるスポーツに取り組むことで、地域への親しみと体力・精神力を育み将来的に競技者への足がかりとしてもらう。				
成果と課題	第11回北秋田市民スキー大会（112名） 第70回大館北秋田中学校スキー大会（18名） 第63回北秋田学童スキー大会（58名） 第53回大館・北秋田スキー米内沢大会（中止） 児童数の減少に伴い参加人数も減少傾向にあるが、地域の自然条件におけるスポーツ環境が提供されていることにより、スキー競技へ取組む足がかりとしての目標となっている。また冬期間の運動不足解消へ向けたスポーツ推進及び青少年の健全育成が図られている。 第53回大館・北秋田スキー米内沢大会が、県内他地区の大会と日程が重なったことにより申込者が少なかったため中止とした。				
今後の方向性	開催方法等について検討しながら継続開催に努める。				
平成30年度 評 価 指 標	季節・地域特有の自然環境におけるスポーツに取り組むことで、地域への親しみと体力・精神力を育み将来的に競技者への足がかりとしてもらう。				
学識経験者の 意 見	この地域特有のスポーツとして親しんでもらうためにも、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

60 北秋田市スポーツ大会出場費補助事業				主管課	スポーツ振興課
決 算 額	1,482 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		3 (2) 期待以上	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (5) 継続
活 動 内 容	全県大会以上の大会派遣費を補助する事により、スポーツ活動への参加を助長し、子どもたちの心身の健全な育成及びスポーツ活動の底辺拡大と振興を図った。				
評 価 指 標	大会出場経費に関する不安要素を軽減することで、スポーツ活動に取り組みやすい環境づくりを行う。				
成果と課題	全県大会、東北大会、全国大会出場の43団体に対して参加費・交通費・宿泊費の一部を補助した。 上位大会出場という目標を持って、スポーツ活動に取り組んでおり、目標達成のためには本事業は有効である。 ジュニアスポーツ団体の活動が多様化してきており、スポーツ少年団に限定せず学校での部活動以外全てのスポーツ団体を対象とすることとした。				
今後の方向性	保護者の負担軽減を図ることから継続とする。				
平成30年度 評 価 指 標	大会出場経費に関する不安要素を軽減することで、スポーツ活動に取り組みやすい環境づくりを行う。				
学識経験者の 意 見	子どもたちがスポーツで頑張る姿は地域を元気にし、その活躍は地域活性化にもつながる。有望な子どもを育てるための強化費のようなものも検討し、頑張りが続くよう支援してもらいたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

61 北秋田市スポーツ大会開催補助事業				主管課	スポーツ振興課
決 算 額	438 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (2) 継続
活 動 内 容	北秋田市内で開催されている一定規模の大会へ経費の一部を補助する。				
評 価 指 標	競技大会を開催することにより、競技力の向上を図る。				
成果と課題	全県大会など一定規模の大会が継続的に開催されることにより、活動目標を定められ地域における競技力の強化が図られる。 県内各地において各種競技大会が増えている傾向にあるため、団体に対し開催を促すことは困難である。				
今後の方向性	競技協会に対し、現在開催されている大会の継続を働きかける。				
平成30年度 評 価 指 標	競技大会を開催することにより、競技力の向上を図る。				
学識経験者 の 意 見	金額は少ないが、費用対効果は大きく、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

新	62 北秋田市スポーツ文化等合宿誘致促進事業				主管課	スポーツ振興課
	決 算 額	300 千円	有効性 (H28)	費用対効果 (H28)	必要性 (H28)	方向性 (H28)
			2 ー 期待どおり	2 ー 予定どおり	2 ー 高い	4 ー 継続
	活 動 内 容	市外に存するスポーツ・文化活動団体に対し、北秋田市内において合宿することを誘致促進を図る。				
	評 価 指 標	市外からの団体を受け入れることにより、関係する地元団体との交流促進及び地域活性化を図る。				
	成果と課題	スポーツ団体の受入れであったが、地元競技団体との交流により競技力向上が図られた。また地域の飲食店等の活性化が図られた。				
	今後の方向性	競技協会等にPRすることにより継続を図る。				
	平成30年度 評 価 指 標	市外からの団体を受け入れることにより、関係する地元団体との交流促進及び地域活性化を図る。				
	学識経験者 の 意 見	首都圏からの教育実習生も対象とするなど、少額でもいいので対象者の拡大等、他自治体に先駆けて実施を図りたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大